第35回日本形成外科学会基礎学術集会

ROHTO

ランチョンセミナー6

# PRP療法の基礎から臨床応用まで

2026年 12月18日（金）
12:15～13:15 第3会場
那覇文化芸術劇場 なはーと「大スタジオ」

座長



森本 尚樹 先生
京都大学大学院医学研究科
形成外科学

講演 1

## PRPとフィブリンゲルを読み解く
–TIMERSのRから捉えるオートロジェル システム–



馬場 香子 先生
北里大学メディカルセンター
形成外科

講演 2

## オートロジェルの臨床応用：
下肢難治性潰瘍に対する当院の経験から



鈴木 翔太郎 先生
福岡大学
形成外科

共催：第35回日本形成外科学会基礎学術集会/ロート製薬株式会社

講演 1

## 馬場 香子 先生

北里大学メディカルセンター　形成外科

略歴

1998年　北里大学医学部卒業
　　北里大学医学部形成外科・美容外科入局
2005年　日本形成外科学会認定専門医所得
2012年　北里大学医学部　医学博士号所得
2018年　北里大学医学部復職
　　北里大学メディカルセンター形成外科部長・医学部講師
2024年　北里大学医学部　形成外科・美容外科学准教授
2026年　北里大学メディカルセンター　副院長

### PRPとフィブリンゲルを読み解く
#### —TIMERSのRから捉えるオートロジェル システム—

創傷治癒において血小板は止血に加え、活性化に伴いα顆粒から多様な成長因子を放出する。これらは協調して細胞の遊走・増殖、血管新生などを促す。多血小板血漿（PRP）は、自己血を遠心分離して得る血小板を多く含む血漿分画である。近年の創傷治療ではTIMERSが提唱され、修復・再生（Repair/Regeneration：R）の視点が取り入れられている。オートロジェル システムは、成人自己末梢血由来PRPを活性化してフィブリンゲルを調製する医療機器であり、薬事承認を受けている。PRPを創面に留め、成長因子を局所に供給することで、既存治療が奏効しない創傷の治癒促進が期待される。本講演では、成人自己末梢血と臍帯血という材料由来の相違を踏まえ、臍帯血由来PRPの成長因子とフィブリンの足場機能に関する演者らの基礎研究を提示し、PRPゲルの創傷治癒における作用機序を考察する。

講演 2

## 鈴木 翔太郎 先生

福岡大学　形成外科

略歴

2013年　山口大学医学部　卒業
2013年　国立病院機構熊本医療センター　初期臨床研修医
2015年　福岡大学病院　形成外科　助手
2016年　池友会新小文字病院　形成外科　医員
2017年　福岡大学病院　形成外科　助手
2018年　福岡大学病院　形成外科　助教
2026年　福岡大学病院　形成外科　助教、副診療部長
同科にて、外来医長、医局長といった役職を務め、現在に至る

### オートロジェルの臨床応用：
#### 下肢難治性潰瘍に対する当院の経験から

多血小板血漿（platelet-rich plasma：PRP）は、血小板由来増殖因子を高濃度に含む自己血由来製剤であり、難治性皮膚潰瘍に対し臨床応用されてきた。オートロジェルシステムは、自己血から短時間でPRPゲルを調製できるキットであり、2022年に薬事承認を取得した。ゲル化により、被覆材と併用して軟膏のように創部へ局所投与できる。当院では、保存的治療や外科的治療に抵抗性を示した糖尿病、膠原病、静脈うっ滞などを背景とする下肢難治性潰瘍を中心に、オートロジェルを創部に直接塗布し種々の被覆材で保護する方法で使用してきた。その結果、多くの症例で肉芽形成の促進、創面縮小、滲出液の減少を認め、治療経過中に重篤な有害事象は認めなかった。一方、塗布後の留置期間や併用する被覆材の選択など、使用方法には議論の余地がある。本発表では、これらの点を含めた当院の臨床使用経験を症例とともに報告し、オートロジェルの適応と今後の展望について考察する。

MEMO

共催：第35回日本形成外科学会基礎学術集会/ロート製薬株式会社